

(7) 受講生によるアンケート評価

◎「命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習」アンケート集計結果

受講者数：計 25 名

I 本取組に関する共通の質問

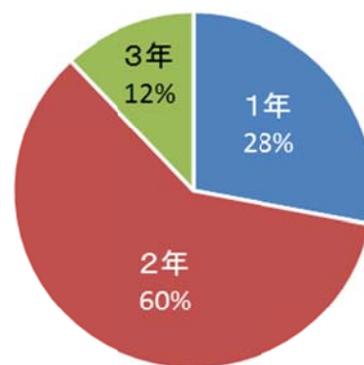
I-1【属性について】

I-1-1) 所属大学・学部（コース等）

- 福山大学 生命工学部：11 名
 - （ 生物工学科：4 名
 - （ 海洋生物科学科：4 名
 - （ 生命栄養価学科：3 名
 - （ 環境都市工学科：4 名
 - （ 建築工学科：2 名
 - （ 機械工学科：1 名
- 呉工業高等専門学校：7 名
 - 長浜バイオ大学 アニマルバイオサイエンス学科：4 名
 - 広島女学院大学 人間生活学部 管理栄養学科：2 名
 - 弓削商船高等専門学校 情報工学科：1 名

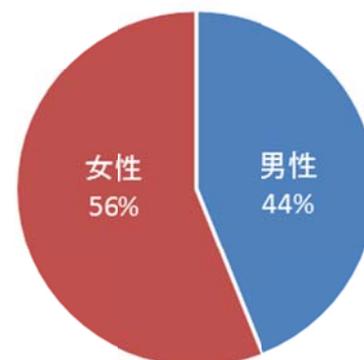
I-1-2) 学年

- 1 年次生：7 名
- 2 年次生：15 名
- 3 年次生：3 名
- 4 年次生：該当者なし



I-1-3) 性別

- 男性：11 名
- 女性：14 名

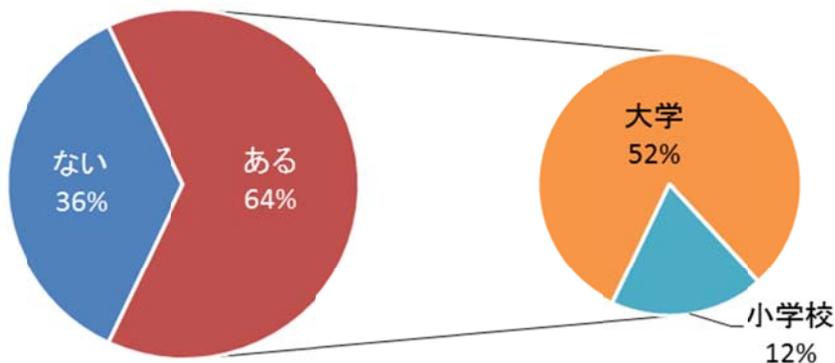


I-1-4) この演習以外に、これまでにフィールドを利用した授業を受けた経験があるか

ある：16名， ない：9名

↳ I-1-5) それほどの時期か(複数可)

- 大学：13名
- 高校：該当者なし
- 中学校：該当者なし
- 小学校：3名



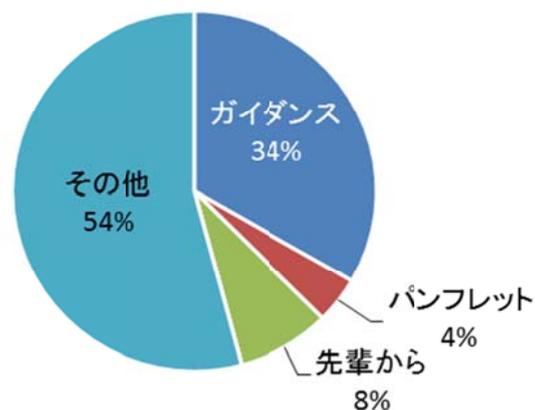
↳ I-1-6) 授業の内容

- | | |
|--------------|-------------|
| ● 野菜の栽培：4名 | ● 微生物採集 |
| ● 植物の同定：2名 | ● 臨海実習 |
| ● 水族館実習：3名 | ● 宮島での歴史学習 |
| ● 乗船実習：2名 | ● みかんの収穫 |
| ● 農場体験：2名 | ● 地域の川のゴミ拾い |
| ● 地域調査 | ● 魚の種類を調べる |
| ● 水生生物の調査 | ● 牧場 |
| ● 河川の見学 | ● 森の生き物調べ |
| ● 海岸の水たまりの生物 | ● 米作り |
| ● 地引網 | |

I-2 【この授業に参加するにあたっての情報入手について】

授業のことを、何を通して知ったか(複数可)

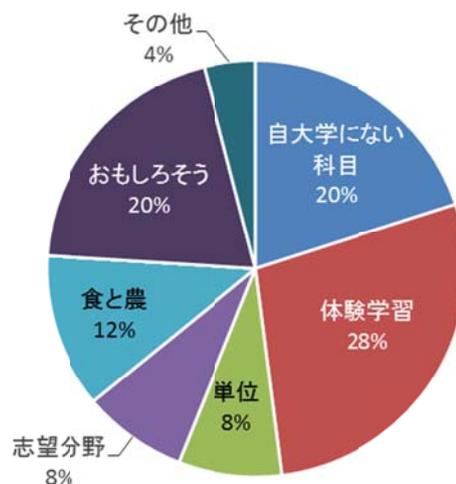
- ガイダンス：8名
- パンフレット：1名
- 先輩から：2名
- ネット：該当者なし
- その他：13名



I-3 【この授業に参加した理由について】

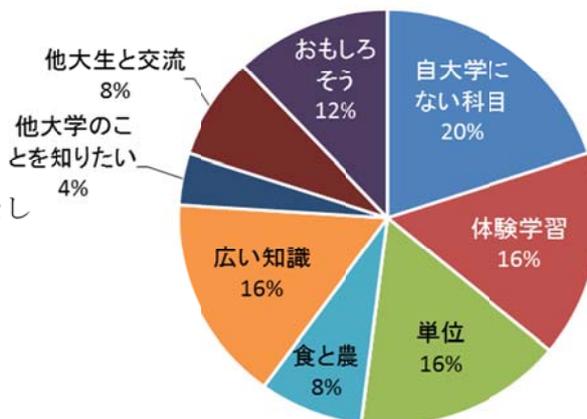
I-3-1) 最も強い動機はどれだったか

- 自分の大学には無い授業科目だから：5名
- 体験学習だから：7名
- 単位が取得できるから：2名
- 現在の志望分野に関係するから：2名
- 食と農について学べるから：3名
- 広い知識を得たいから：該当者なし
- 他大学のことを知りたいから：該当者なし
- 他大学の学生と交流できるから：該当者なし
- 友人が参加するから：該当者なし
- おもしろそうだから：5名
- その他（自由記述）：1名



I-3-2) 二番目に強い動機はどれだったか

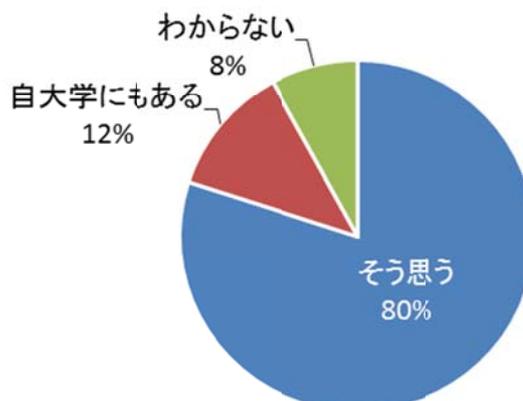
- 自分の大学には無い授業科目だから：5名
- 体験学習だから：4名
- 単位が取得できるから：4名
- 現在の志望分野に関係するから：該当者なし
- 食と農について学べるから：2名
- 広い知識を得たいから：4名
- 他大学のことを知りたいから：1名
- 他大学の学生と交流できるから：2名
- 友人が参加するから：該当者なし
- おもしろそうだから：3名
- その他（自由記述）：該当者なし



I-4 【広島大学で授業を受けた感想】

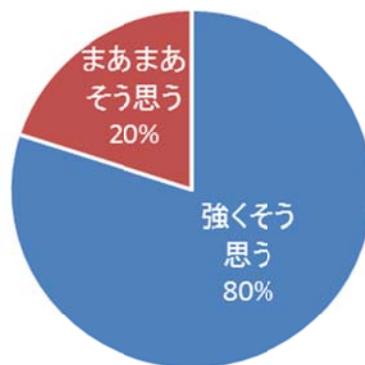
I-4-1) 今回受講したフィールド教育に類する授業は、自大学にはない科目・内容だった

- そう思う：20名
- 自分の大学にも類する科目がある：3名
- わからない：2名



I-4-2) 他大学の先生の授業を受講できて良かった

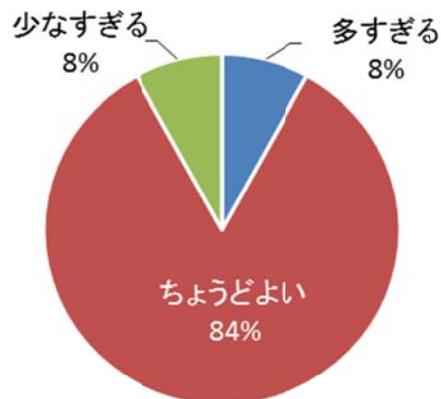
- 強くそう思う：20名
- まあまあそう思う：5名
- あまりそう思わない：該当者なし
- 全く思わない：該当者なし



I-5 【他大学の学生との交流等について】

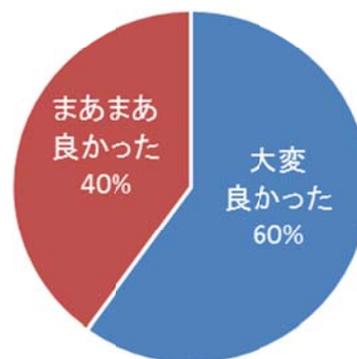
I-5-1) 今回の授業の受講者数(30名)は、

- 多すぎる：2名
- 丁度良い：21名
- 少なすぎる：2名



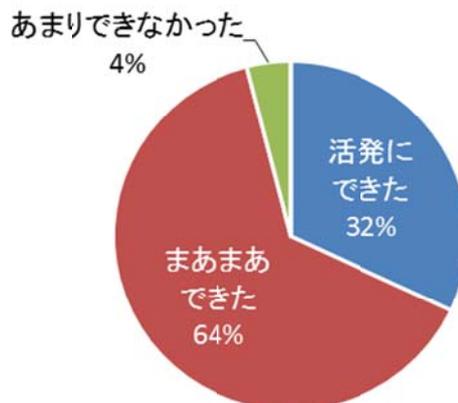
I-5-2) 他大学の学生と同じ授業を受けたことについて

- 大変良かった：15名
- まあまあ良かった：10名
- あまり良くなかった：該当者なし
- 悪かった：該当者なし



I-5-3) 他大学の学生と交流がどの程度できたと思うか

- 活発にできた：8名
- まあまあできた：16名
- あまりできなかった：1名
- 全くできなかった：該当者なし

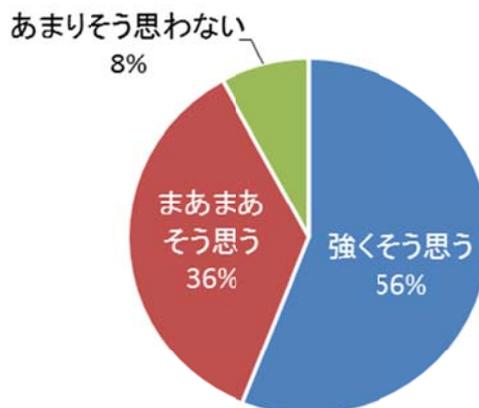


I-6 【演習の実施方法について】

(この授業は、4日間の集中形式で、講義、実習、発表の3部から構成されている)

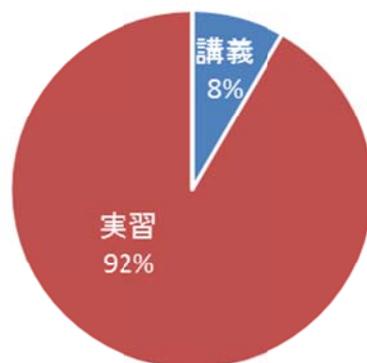
I-6-1) こうした組合せは、授業を理解する上で有効である

- 強くそう思う：14名
- まあまあそう思う：9名
- あまりそう思わない：2名
- 全く思わない：該当者なし



I-6-2) 講義、実習、発表のうち、最も面白かったもの

- 講義：2名
- 実習：23名
- 発表：該当者なし



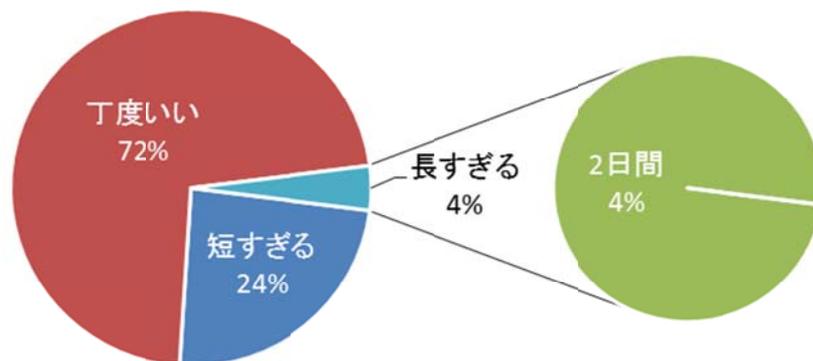
I-6-3) 3泊4日の日数について

- 長すぎる：1名



I-6-4) 何日間なら良いか

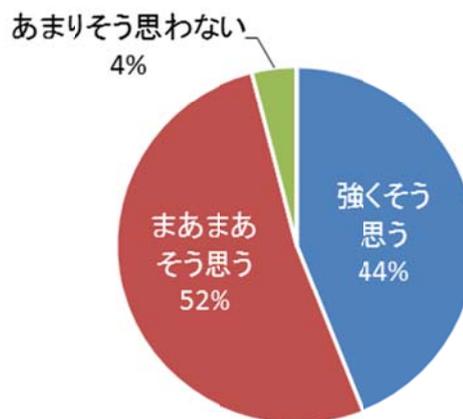
- 1単位になっても2日間が良い：1名
- 1単位になっても3日間が良い：該当者なし
- 丁度良い：18名
- 短すぎる：6名



I-7【参加費に関して】

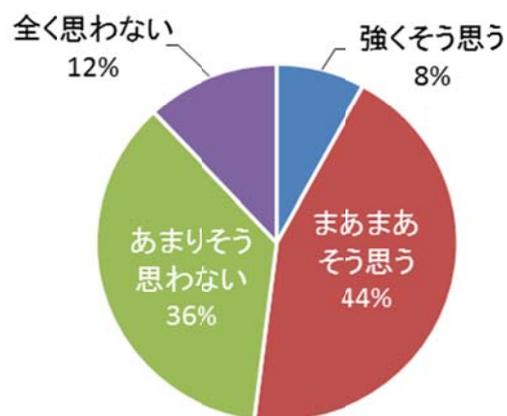
I-7-1) 自分の得たものを考えると参加費は妥当か

- 強くそう思う：11名
- まあまあそう思う：13名
- あまりそう思わない：1名
- 全く思わない：該当者なし



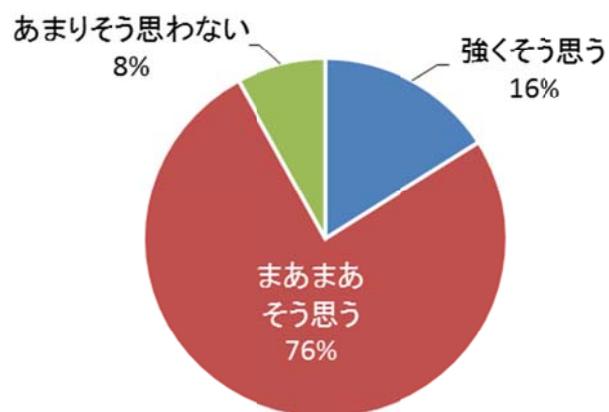
I-7-2) 参加費（実費）から考えて、食事は満足できたか

- 強くそう思う：2名
- まあまあそう思う：11名
- あまりそう思わない：9名
- 全く思わない：3名



I-7-3) 参加費（実費）から考えて、宿泊施設には満足できたか

- 強くそう思う：4名
- まあまあそう思う：19名
- あまりそう思わない：2名
- 全く思わない：該当者なし



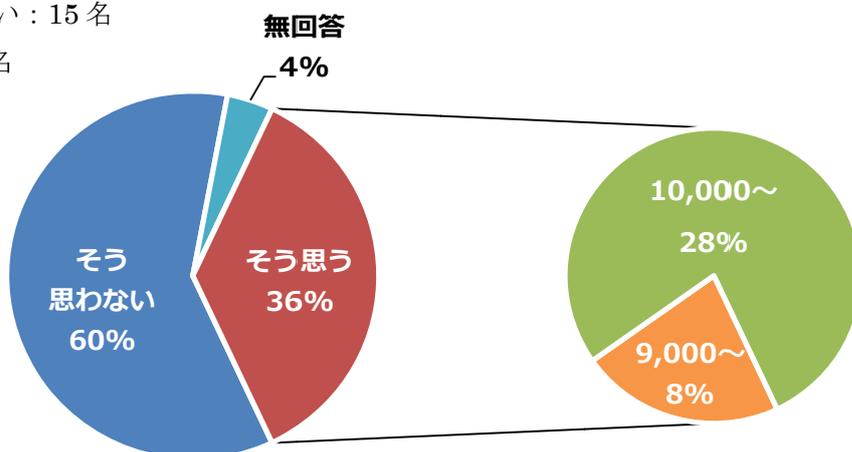
I-7-4) 参加費（実費）をもっと高くしても食事と宿泊施設を良くしてほしいか

- そう思う：9名



I-7-5) 参加費（実費）がどの程度までなら参加するか

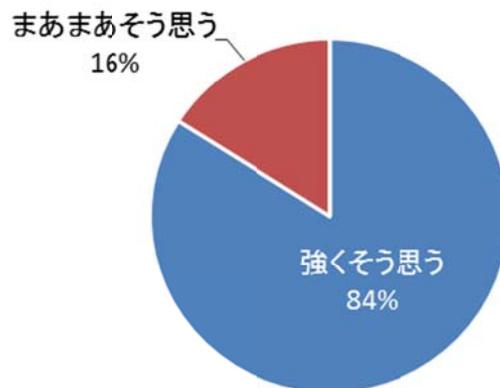
- 9,000円～：2名
- 10,000円～：7名
- 15,000円～：該当者なし
- 20,000円～：該当者なし
- そう思わない：15名
- 無回答：1名



I-8 【食農フィールド科学演習全体について】

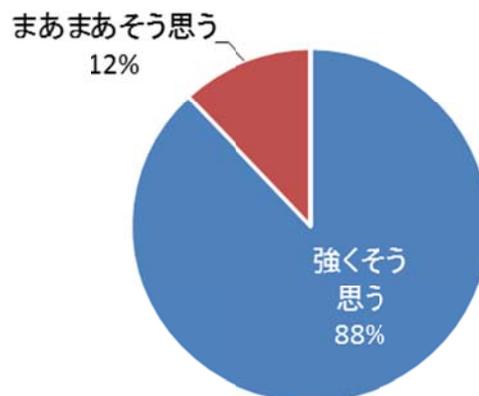
I-8-1) このフィールド科学演習の形式は通常の講義だけの授業よりも、物事を考える上で、有意義である

- 強くそう思う：21名
- まあまあそう思う：4名
- あまりそう思わない：該当者なし
- 全く思わない：該当者なし



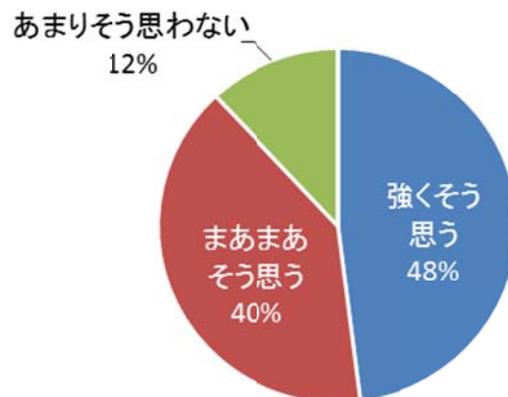
I-8-2) この演習によって、フィールド科学の幅広さや面白さを知った

- 強くそう思う：22名
- まあまあそう思う：3名
- あまりそう思わない：該当者なし
- 全く思わない：該当者なし



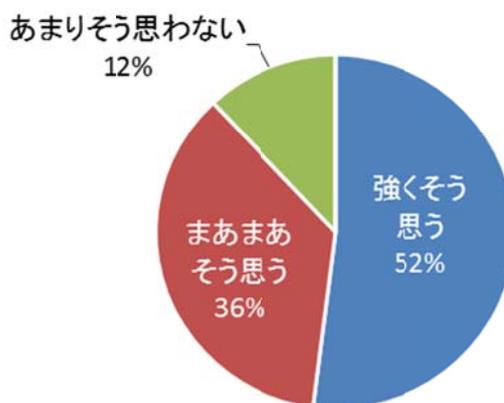
I-8-3) この演習を受講して食べ物と農業の関係についてもっと知りたくなった

- 強くそう思う：12名
- まあまあそう思う：10名
- あまりそう思わない：3名
- 全く思わない：該当者なし



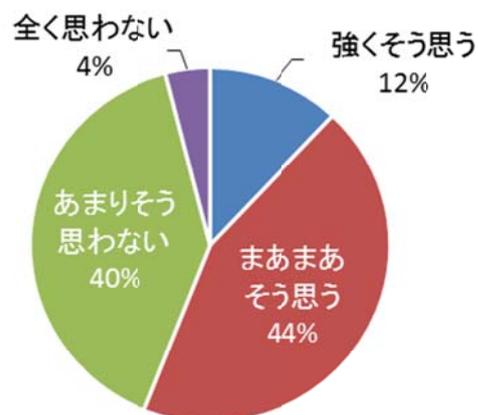
I-8-4) この演習によって、食べ物と命の関連性について考えるようになった

- 強くそう思う：13名
- まあまあそう思う：9名
- あまりそう思わない：3名
- 全く思わない：該当者なし



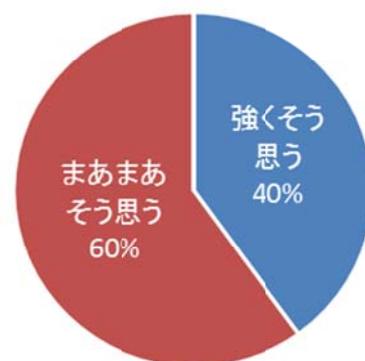
I-8-5) この演習によって、わが国の食料自給率について考えるようになった

- 強くそう思う：3名
- まあまあそう思う：11名
- あまりそう思わない：10名
- 全く思わない：1名



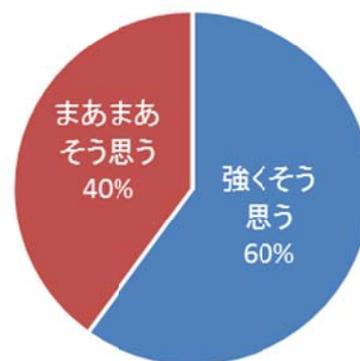
I-8-6) この演習によって、行動力や積極性を高めることができた

- 強くそう思う：10名
- まあまあそう思う：15名
- あまりそう思わない：該当者なし
- 全く思わない：該当者なし



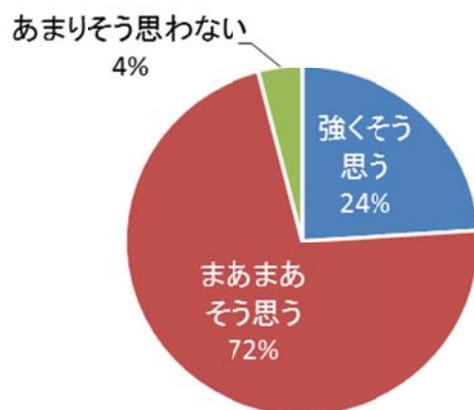
I-8-7) この演習によって、これからの学習意欲が高まった

- 強くそう思う：15名
- まあまあそう思う：10名
- あまりそう思わない：該当者なし
- 全く思わない：該当者なし



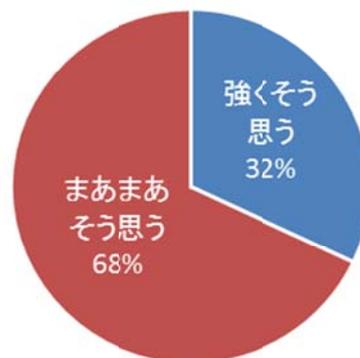
I-8-8) 他大学の学生と交流することによって、コミュニケーションスキルが高まった

- 強くそう思う：6名
- まあまあそう思う：18名
- あまりそう思わない：1名
- 全く思わない：該当者なし



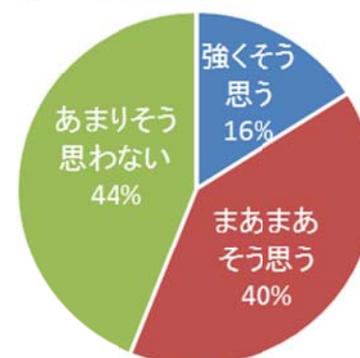
I-8-9) グループ単位の実習によって、チームワークに対する意識が高まった

- 強くそう思う：8名
- まあまあそう思う：17名
- あまりそう思わない：該当者なし
- 全く思わない：該当者なし



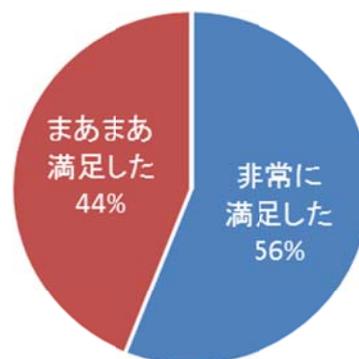
I-8-10) グループ単位の実習によって、リーダーシップをとる力が高まった

- 強くそう思う：4名
- まあまあそう思う：10名
- あまりそう思わない：11名
- 全く思わない：該当者なし



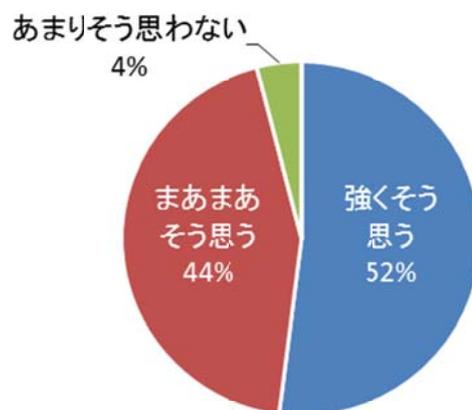
I-8-11) 参加する前の期待度に比べて満足度はどうか

- 非常に満足した：14名
- まあまあ満足した：11名
- あまり満足できない：該当者なし
- 全く満足できない：該当者なし



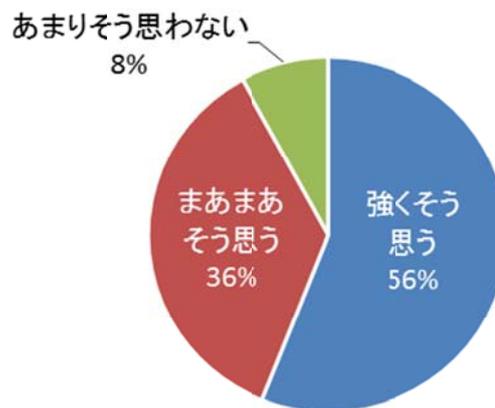
I-8-12) 今回の演習を受講して後輩にも勧めたいと思ったか

- 強くそう思う：13名
- まあまあそう思う：11名
- あまりそう思わない：1名
- 全く思わない：該当者なし



I-8-13) フィールド科学演習以外にも他大学の講義を受講できる機会をもっと増やして欲しいか

- 強くそう思う：14名
- まあまあそう思う：9名
- あまりそう思わない：2名
- 全く思わない：該当者なし



II 授業に関する質問（この演習は、講義、実習、発表等から構成されている）

II-1【今回の講義に関する質問】

II-1-1) 最も面白いと感じた講義とその理由

- 演習ガイダンス：3名
- 家畜（ニワトリ）の体の仕組みを見る：10名
- ニワトリの肉を加工する：3名
- 牧草から牛乳ができるまで：7名
- 搾乳した生乳を加工する：2名
- 搾った牛乳からヨーグルトを作る：該当者なし

<理由>

演習ガイダンス

- ・家畜と人間を連想したことが無かったから。
- ・先生の専門からの視点でショックを受けたことを聞いて衝撃を受けたため。
- ・考えさせられるものがあった。

家畜（ニワトリ）の体の仕組みを見る

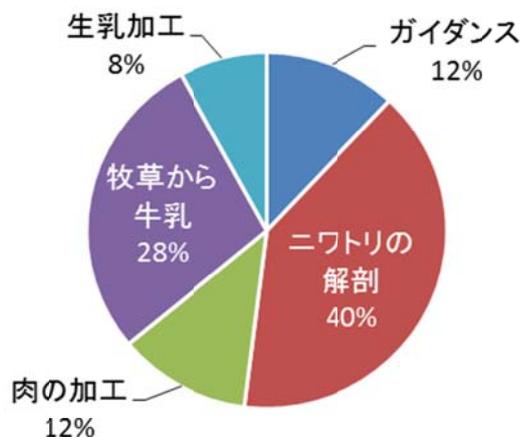
- ・哺乳類の体の仕組みは知っているが、鳥類は全然知らなかったの。
- ・初めてニワトリの解剖を見て、死んでいる状態を見たから。
- ・（マウスに比べて）大きい動物の解剖だったので印象に残った。
- ・鶏の解剖は普段、大学ではしないから。
- ・解剖を行うこと。
- ・発表の題材にしたから。
- ・初めて解剖をみたから。
- ・一番インパクトがあったし、今まで経験したことがなかったから。
- ・解剖を間近で見たから。

ニワトリの肉を加工する

- ・1つ1つ加工してレトルトにするのは大変だと思ったから。
- ・鶏の解剖が印象的過ぎた。
- ・安全率の違いがわかったため。

牧草から牛乳ができるまで

- ・全ての植物で消化するわけではないから。
- ・なぜ草から牛乳ができるのかを理解することができたから。
- ・牧草が牛乳を作る上で必要なエネルギーだということがわかったから。
- ・参加理由である食事の栄養面や衛生面の知識を深めることができたため。
- ・実際に見たことがなかったから。
- ・動物のサイクルを深く知ることができた。



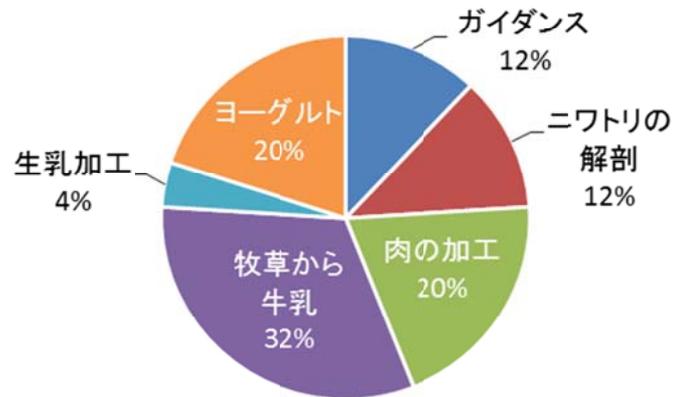
- ・ どうやって牛がお乳を出しているのかわかった。

搾乳した生乳を加工する

- ・ 自分で自分の分を作ったから。
- ・ ちょっとだけだけどできてうれしかった。

Ⅱ-1-2) 最も理解しにくかった講義とその理由

- 演習ガイダンス：3名
- 家畜（ニワトリ）の体の仕組みを見る：3名
- ニワトリの肉を加工する：5名
- 牧草から牛乳ができるまで：8名
- 搾乳した生乳を加工する：1名
- 搾った牛乳からヨーグルトを作る：5名



<理由>

演習ガイダンス

- ・ 要点を捉えづらかったため。
- ・ 内容が理解しにくかったから。
- ・ 命とは生きるとはどういうことかわからなかったから。

家畜（ニワトリ）の体の仕組みを見る

- ・ 難しかった。
- ・ 先生の声が少し聞き取りづらかった。
- ・ 命の尊厳という点では薄かったように思われたから。

ニワトリの肉を加工する

- ・ 作業に追われてあまり質問することもできなかったため。
- ・ 効率が悪かったから。
- ・ 資料がむずかしかった。
- ・ 実際に自分たちが解剖した肉を加工するわけではなかったから。
- ・ 実習の時間を取るため講義の時間が短く、内容が難しかったため。

牧草から牛乳ができるまで

- ・ 生化学があまり得意ではないので。
- ・ 難しい内容だったから。
- ・ 牧草が牛乳になるとは簡単に結びつかなかった。
- ・ 餌の材料など見慣れないものが多かったから。
- ・ エネルギーが乳に代わることは理解したが牧草についてさらに知りたいと思ったから。

- ・濃厚飼料や粗飼料が人のどういった食事にあたるのか知りたかった。
- ・用語が難しかった。

搾乳した生乳を加工する

- ・模範が無かったから。

搾った牛乳からヨーグルトを作る

- ・結局、ヨーグルトを作っていないから。
- ・ヨーグルトは約1日、放置なのであまり作った実感がわかなかった。
- ・作業の効率が悪かった。
- ・何もしていない時間が多かった。
- ・菌は目に見えなくてわかりにくい。

Ⅱ-2【今回の実習に関する質問】

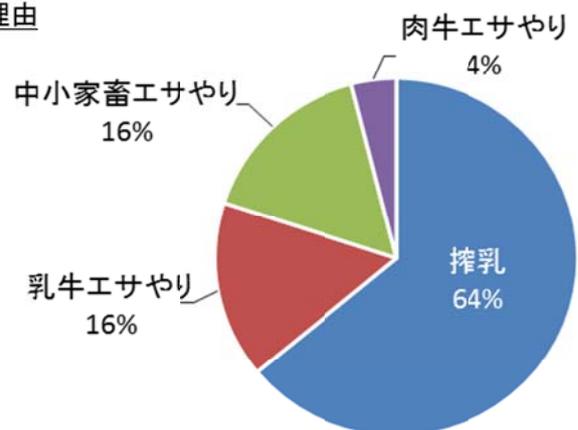
Ⅱ-2-1) 最も面白と感じた管理作業とその理由

- 乳搾り体験：16名
- 乳牛へのエサやり：4名
- 中小家畜へのエサやりと畜舎の掃除：4名
- 肉牛へのエサやり：1名

<理由>

乳搾り体験

- ・初めて乳を搾ったから。
- ・実際に手で搾ることができた。
- ・自分の手でしぼることができたから。
- ・初めて乳搾りができて楽しかったからあまりできない体験だから小さい頃とは違う体験をすることができたから。
- ・搾る前と搾ったあとではお乳のハリが全く違うことがわかったから。
- ・牛に触れることができてわくわくした。
- ・講座の中で牛と初めに接する機会であり衛生への配慮方法を知ったから。
- ・初めてだったが意外と簡単に搾れてうれしかった。
- ・初めてだったのでやわらかくあたたかくてとてもたのしかったから。
- ・普段できないから。
- ・珍しい体験で乳牛の健康の管理などもできて学ぶことが多かった。
- ・テレビなどで見てやってみたいと思っていたから。
- ・実際に搾れたから。



乳牛へのエサやり

- ・放牧まで行くのが楽しかった。
- ・生後何日かで床におがくずを敷いたり、子牛にミルクの飲み方を教えたり楽しかった。
- ・実際に配合を体験できたから。
- ・新鮮な乳を作ってもらいたいと思ったから。

中小家畜へのエサやりと畜舎の掃除

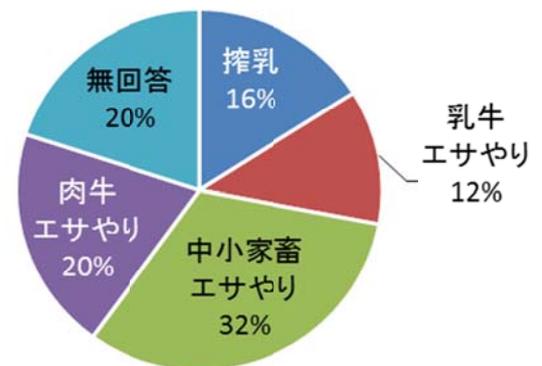
- ・かわいかった。
- ・ヤギと触れ合えて楽しかった。
- ・掃除をしていない。
- ・単純だが放牧の作業が面白かった。

肉牛へのエサやり

- ・牛にお乳を与えられたため。

Ⅱ-2-2) 最も理解しにくかった管理作業とその理由

- 乳搾り体験：4名
- 乳牛へのエサやり：3名
- 中小家畜へのエサやりと畜舎の掃除：8名
- 肉牛へのエサやり：5名
- 無回答：5名



<理由>

乳搾り体験

- ・乳の出具合が悪いから。
- ・むずかしかった。
- ・とにかく面白かった。
- ・搾りにくかった。

乳牛へのエサやり

- ・前の講義が長引き、質問する時間がなかった。
- ・1頭1頭エサが違うが、どうやって判断しているのか知りたいと思ったから。
- ・飼料について理解しにくかったため。

中小家畜へのエサやりと畜舎の掃除

- ・あまり印象がないから。
- ・あまりしてないから。
- ・中小家畜では実習の際、戸惑った。

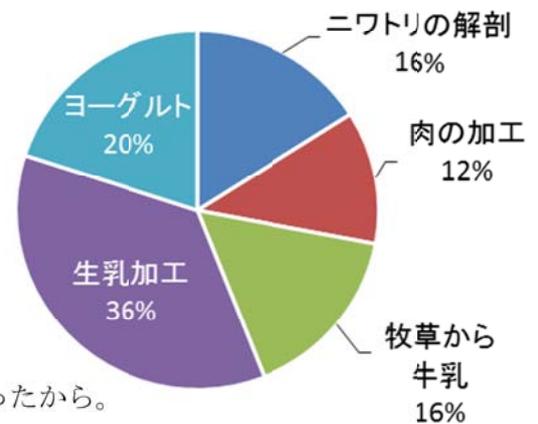
- ・畜舎の掃除をしてないから。
- ・子牛もバケツでミルクをあげていたので予想したのと違った。
- ・あまりやらなかった。
- ・掃除はしてないから。

肉牛へのエサやり

- ・乳牛と少し似ている感じがして区別がつかないから。
- ・乳牛と肉牛のエサは同じかと思った。
- ・バター作りが楽しかった。

Ⅱ-2-3) 最も面白いと感じた実習（講義と実習がセットになっている授業）とその理由

- 家畜（ニワトリ）の体の仕組みを見る：4名
- ニワトリの肉を加工する：3名
- 牧草から牛乳ができるまで：4名
- 搾乳した生乳を加工する：9名
- 搾った牛乳からヨーグルトを作る：5名



<理由>

家畜（ニワトリ）の体の仕組みを見る

- ・あまり食べない部分はどのような働きをするか知りたかったから。
- ・肉以外にも臓器など見られて良かった。
- ・臓器を知ることができたから。

ニワトリの肉を加工する

- ・人が多くて全員にまわらない。
- ・レトルトをつくる裏側が体験できてためになった。
- ・レトルトになる仕組みがわかったから。

牧草から牛乳ができるまで

- ・エサの工夫について十分に知識を深めることができた。
- ・牛が食べるトウモロコシは私たちが食べるのと違うことがわかったから。
- ・実際にみたのが初めてだから。
- ・おもしろかった、微生物は関与していることは意外だった。

搾乳した生乳を加工する

- ・牛乳が簡単にバターになった瞬間が忘れられない。
- ・バターを作る作業が楽しかった。

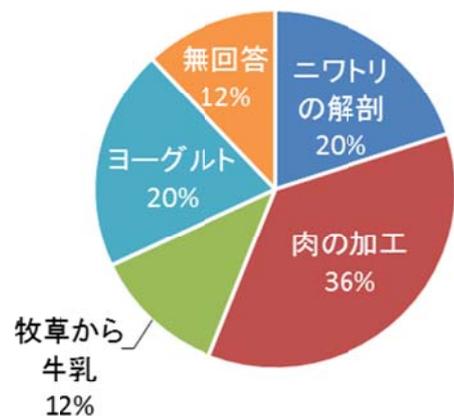
- ・バター作りが面白かった。
- ・バター作りが楽しかったから。
- ・市販の牛乳ではバターができないことが分かったから。
- ・ペットボトルを振り続けてバターができはじめるとうれしかったから。
- ・過程が見えないのでいまいちピンとこない。
- ・学校で実習を行ったときよりバターが簡単に作れたから。
- ・牛乳当てクイズを外した 牛乳嫌いだが久々に飲めた。

搾った牛乳からヨーグルトを作る

- ・家でもできるから。
- ・レモン汁を入れてすぐにチーズになったり、ヨーグルトも簡単にできそうだったから。
- ・ヨーグルトを作る過程を見られて面白かった。
- ・牛乳だけでチーズが作れた。
- ・ヨーグルトとチーズを作れたから。

Ⅱ-2-4) 最も理解しにくかった実習（講義と実習がセットになっている授業）とその理由

- 家畜（ニワトリ）の体の仕組みを見る：5名
- ニワトリの肉を加工する：9名
- 牧草から牛乳ができるまで：3名
- 搾乳した生乳を加工する：該当者なし
- 搾った牛乳からヨーグルトを作る：5名
- 無回答：3名



<理由>

家畜（ニワトリ）の体の仕組みを見る

- ・むずかしかった。
- ・理屈で学ぶより実際に解剖したから理解が容易であったため。
- ・いつも見る臓器とは全く違う臓器があつて戸惑った。
- ・見るので精いっぱいだった。
- ・卵胞は1日1つ増えるのかどうか知りたいと思ったから。

ニワトリの肉を加工する

- ・長時間保存させるにはどのようにしたら良いのかわかりにくかったから。
- ・機械の中で起こっていることが想像つかなかった。
- ・実習の時間を取るため講義の時間が短く、内容が難しかったため。
- ・パックするときに空気を抜くことが理解できなかった。
- ・命の尊厳という点では薄い。
- ・あまり印象がない。

- ・作業に追われてしまったため。
- ・実際に鶏の肉を焼いたりしていないから。

牧草から牛乳ができるまで

- ・実習というより説明だった。
- ・専門的なことが多かったのでわかりやすかった。
- ・もっと詳しく教えてほしかったから。

搾った牛乳からヨーグルトを作る

- ・TAの人が作業し過ぎだと思う。
- ・説明不足だった。
- ・チーズは少し説明があったがヨーグルトのできる仕組みはあまり聞けなかった。
- ・ヨーグルトを作っていないから。

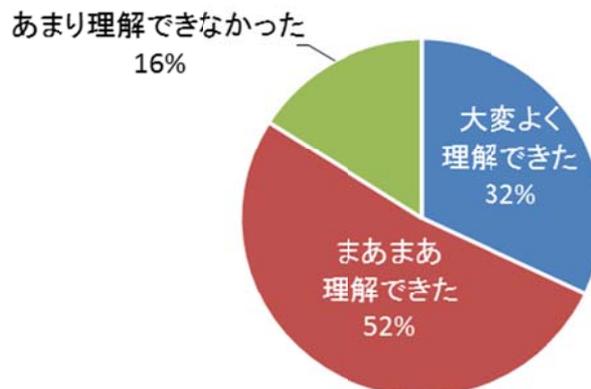
Ⅱ－２－５）作ってみたい食品や体験してみたい作業工程

- チーズ：4名
- 缶詰：3名
- ソーセージ
- やきとり
- ソフトクリーム
- アイスクリーム
- ミートソースなどパスタに用いるソースの製造
- ヤクルトのような飲み物
- その場ですぐ食べられる食品
- カレー以外のレトルトを一から作ってみたい。
- 解剖した鶏を直接加工したかった。
- 今回はできなかったがやはり自分たちで搾った牛乳でヨーグルトを作りたい。

Ⅱ－３ 【今回の発表会および発表準備に関する質問】

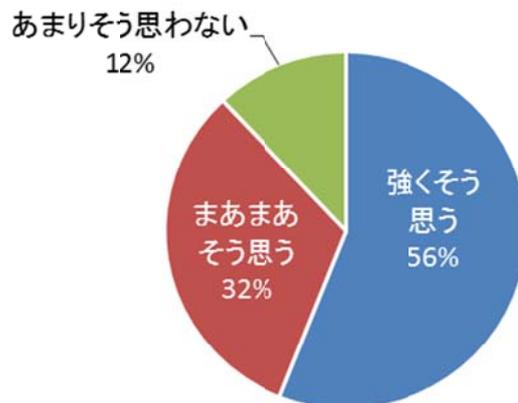
Ⅱ－３－１）発表準備会2日目の教員と技術職員による授業と討論は理解できたか

- 大変よく理解できた：8名
- まあまあ理解できた：13名
- あまり理解できなかった：4名
- 全く理解できなかった：該当者なし



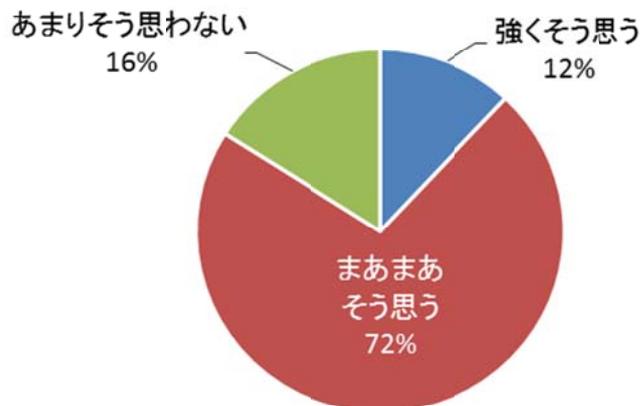
Ⅱ-3-2) 演習3日目の農場における自由質問時間は発表の準備に役立ったか

- 強くそう思う：14名
- まあまあそう思う：8名
- あまりそう思わない：3名
- 全く思わない：該当者なし



Ⅱ-3-3) 発表のチームワークは上手くできたか

- 強くそう思う：3名
- まあまあそう思う：18名
- あまりそう思わない：4名
- 全く思わない：該当者なし



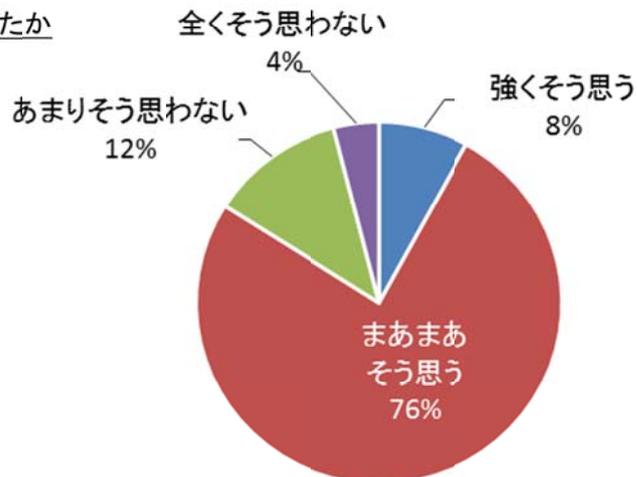
Ⅱ-3-4) 他班の発表と比較して自分たちの発表は

- 上位に位置していた：3名
- 中程度に位置していた：10名
- 下位に位置していた：12名



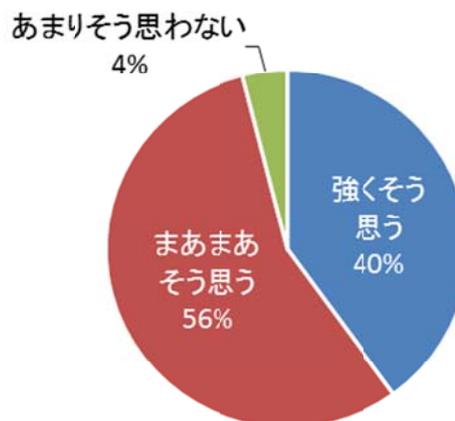
Ⅱ-3-5) 発表のための基礎的な手法が身に着いたか

- 強くそう思う：2名
- まあまあそう思う：19名
- あまりそう思わない：3名
- 全く思わない：1名



Ⅱ-3-6) 発表会をすることで、講義や実習の内容がより理解できた

- 強くそう思う：10名
- まあまあそう思う：14名
- あまりそう思わない：1名
- 全く思わない：該当者なし

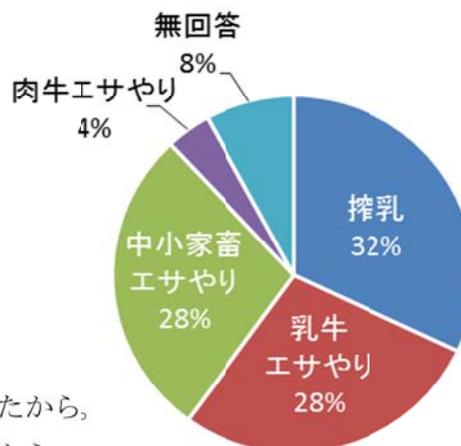


Ⅲ TAに関する質問

Ⅲ-1 【TAの補助に関する質問】

Ⅲ-1-1) TAの補助が最も役に立ったのは、どの管理作業か（その具体例）

- 乳搾り体験：8名
- 乳牛へのエサやり：7名
- 中小家畜へのエサやりと畜舎の掃除：7名
- 肉牛へのエサやり：1名
- 無回答：2名



<具体例>

乳搾り体験

- ・ 上手く搾れなかったけど助けてくれてから乳が出たから。
- ・ 乳搾りのやり方を始める前に少し教えてもらえたから。
- ・ 写真を撮ってもらった。
- ・ 見守っていてくれた。
- ・ 初めての体験だったため。
- ・ 的確に質問に答えてくれたから。
- ・ 職員の方が手を離せない時に話しかけやすかった。

乳牛へのエサやり

- ・ いろいろと質問に答えてもらえた。
- ・ 乳牛が行くべき道を教えてくれたから。
- ・ 餌を入れる場所や牛の番号を一緒に確認してくださったため。
- ・ 飼料を混ぜ合わせている時に「機械に気を付けて」など声掛けしてくれたこと。
- ・ エサやりだけでなく、フィールド演習はTAの方にもいろいろと質問できてよかった。

- ・何をどのように合わせているのか知れた。

中小家畜へのエサやりと畜舎の掃除

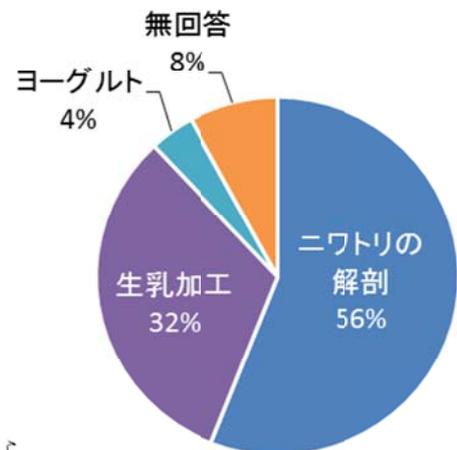
- ・いろいろ教えてもらった。
- ・たくさん質問する時間があったから わかりやすく答えてくれた。
- ・一番初めの作業だったが丁寧にサポートして下さった。
- ・羊の誘導。

肉牛へのエサやり

- ・餌のやり方を教えてくれた。

Ⅲ-1-2) TAの補助が最も役に立ったのは、どの実習か（その具体例）

- 家畜（ニワトリ）の体の仕組みを見る：14名
- ニワトリの肉を加工する：該当者なし
- 牧草から牛乳ができるまで：該当者なし
- 搾乳した生乳を加工する：8名
- 搾った牛乳からヨーグルトを作る：1名
- 無回答：2名



<具体例>

家畜（ニワトリ）の体の仕組みを見る

- ・解剖が初めてであり初めから丁寧に教えてくれたから。
- ・解剖でわからないところを隣で教えてくれた。
- ・解剖の時、丁寧に教えてくれた。
- ・解剖を教えてもらい自分の手で解剖したから。
- ・体の部位の説明。
- ・質問した際に調べて教えてくれた。
- ・どの質問にも丁寧に答えてくださり理解が深まったから。
- ・鶏の体について丁寧に教えていただいた。
- ・部位の名前を教えてもらった。
- ・分からないところが多かったので、質問ができて良かった。
- ・わかりやすく丁寧に教えてくれた。

搾乳した生乳を加工する

- ・TA と話しながら加工したから。
- ・原理の説明があったから。
- ・コツをたくさん教えてくれたから。

- ・作業のタイミングを指示してくれた。
- ・バター作りの際にアドバイスをしてくださった。
- ・バターを作るときに声掛けしてくれたこと。
- ・バターを作るときに細かい指示を出してくれた。

搾った牛乳からヨーグルトを作る

- ・先生の言っている意味をすぐに理解して動いていてすごいと思ったから。

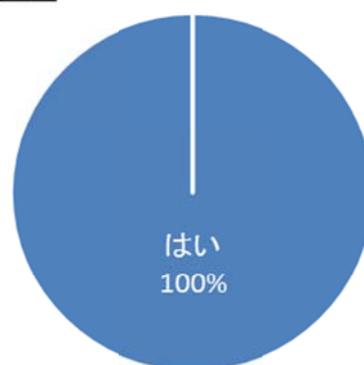
Ⅲ－１－３）発表準備においてTAの補助は役に立ったか（その理由）

- はい：25名
- いいえ：該当者なし

<理由>

はい

- ・いろいろとアドバイスをいただいた。
- ・スピーチの内容でアドバイスをくれて成功したから。
- ・いろいろと教えてもらっていい作品になった。
- ・わからないことを質問したら答えてくださったため。
- ・自分たちにいろいろ質問してくださりそこからいろいろ話を広げることができたから。
- ・わからないことを聞けるため。
- ・アドバイスをしてもらえた。
- ・農業に関する詳細や専門知識はとても役に立った。
- ・迷ったりしているところにアドバイスをもらえた。
- ・分野外のことだったので簡単な質問にもひとつひとつ丁寧に答えてくれたから。
- ・TA が熱心に一緒に考えてくれてうれしかった。
- ・いろいろと解消したから。
- ・思っていたのと違う解答もあったが、大半は参考になった。
- ・知識が多い人にそばにいてもらおうと安心した。
- ・いろいろとアドバイスをくれた。
- ・パワーポイントの文字の大きさやプレゼンの基礎を教えていただいた。
- ・考えが固まらないときにアドバイスをくれたこと。
- ・原稿作りの際に日本語を直してくれた。
- ・アドバイスをたくさんもらったのでまとめやすかった。
- ・突然、質問しても快く答えてくださった。
- ・意見を言うとは何でも深く考えてくれた。



その他 演習に関する感想

良かった点

- ・ 4日間、たくさんの人や動物と関わったのでいい経験になった。
- ・ 鶏の解剖ができて良かった。
- ・ 動物たちとふれあいができてとても楽しかった。
- ・ 牛も羊もヤギものびのびしていて、とても楽しい時間でした TAの皆さんも行動が速くてすごかった。

改善点

- ・ 生物系とそれ以外でやることを複数に分けた方が良い。
- ・ 生物に関わる講義が多かったので、生物についてももう少し深く関わりたいと思った。
- ・ もう少し期間を延ばしてほしい 交流の時間と移動時間がきつかったので少しゆとりがあると良い。
- ・ (先生やTAはあまり手を出さず) 解剖はもっと実習生が行う方が良いと思う。
- ・ 全体的に効率を上げた方が良いと思った。
- ・ テキストと授業内容が違う点が多々あった。
- ・ 講義の後、自力で学習することも重要であるが、質問できる時間がほしい。
- ・ 他校の人たちとあまり関われない。
- ・ 食事の味が濃かったなので、もう少し薄味が良い。
- ・ 課題のテーマが簡単なようで難しかった。

総合考察

命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習は、酪農フィールド科学演習とは異なり、他大学の非農学系学生を対象としている授業であるので、両受講生の授業に取り組む姿勢や理解はかなり異なっていた。これまでにフィールドを利用した授業の内容は、そのほとんどが、植物や野菜の生産、水産関係であり、本演習のような酪農を中心とした畜産体験を受講した学生はほとんどいなかったことから、今後とも本演習を継続することで学生のニーズに答えることができると思われる。酪農フィールド科学演習と同様に、演習内容、演習環境、演習期間等に対する受講生の満足度は例年と同様にいずれも高く、本演習プログラムの5年間の成果が表れたものと考えられる。しかし、非農学系の学生を対象としているために、酪農フィールド科学演習よりもさらに内容をかみ砕いた授業にする工夫が必要であると思われた。例えば、授業中に教員の口から出る専門用語は、農学系の学生には理解できても、非農学系の学生にとっては未知の単語であり、理解を困難にしていた。一方で、本演習では、命と食との関わりについて受講生に考えさせるために、ニワトリの解体実習を取り入れており、受講生はこの経験に対して多様な感想を述べていた。このことから、解体実習は、受講生それぞれが命と食について考えるきっかけとなったものと思われる。平成27年度以降の演習では、およその内容は踏襲するものの、授業形態の詳細については授業担当者間で再考し、専門用語を使わない授業方法を検討することで、学生の理解度を高めることができると考えられた。尚、大学院生TAに対する受講生の評価は概ね良好であったこと、またTAを担当した大学院生も本経験が今後の研究生活に刺激となったことが明らかになっていることから、今後もTAを伴う授業プログラムを継続したい。特に本農場では平成27年度から共同利用拠点の再認定を受けたので、さらに教育の質的向上に努めることが重要である。